

行事報告書(研修)

報告者：溝部浩二

行事名	自然観察会(植物観察)
実施日時	2022年 3月 10日(木曜日) 10時 ~ 15時 天候：晴れ
場所	苦楽園口～北山緑化植物園～北山貯水池周辺
テーマ	“初春の樹々の生き様を観る”
講師	池田 清、藤原泰子、大原 徹
参加者数	22名
内容 (項目と概要)	<p>コロナ禍ではあるが屋外活動でもあり、感染防止対策を行い、3人の講師で3グループの少人数に分かれて実施した。幸い天気にもめぐまれ、楽しい観察会を行うことができた。</p> <p><苦楽園口～北山緑化植物園></p>  <ul style="list-style-type: none"> ・夙川沿いの道は桜の名所でソメイヨシノが多く、クロマツ、アカマツが点在していた。 ・ソメイヨシノ(エドヒガンとオオシマザクラの交雑種)の冬芽の芽鱗にはエドヒガンの性質を引継いで軟毛がある。 ・ナギイカダ(ヨーロッパ原産)があったが、葉のように見えるのは枝が変化したもので、先は鋭いトゲになっている。枝の腋に鱗片状の葉がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・エノキが多かった。ムクノキもあって、両者の冬芽の違い、樹皮の違いの説明を受けた。 ・センダンの葉痕はT字形でおさるの顔に似ていた。幼木の樹皮には小さな皮目が多い。 ・あちこちでハゼノキが目についた。遠目にも枝ぶりの特徴が分かる。仮軸分枝で枝が扇子を拡げたように横方向へ伸びていた。 <p><北山緑化植物園～北山貯水池周辺></p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬芽の3大美芽のうち2つ(ザイフリボクとネジキ)を観察できた。ネジキの一年枝と冬芽は赤く色づいていた。それぞれの樹皮の特徴も観察した。 ・常緑樹では、クロバイ、ヒサカキ、シャシャンボ、ヒメユズリハ、モチノキなどがあった。 ・落葉樹ではマルバアオダモ、ウメモドキ、アオハダ、タンナサワフタギ、カマツカ、ガマズミなどを観察した。ミツマタが咲いており、春の息吹を感じた。 ・最後にクロキを観察した。クロバイとの違いは冬芽の色の違い(赤いのがクロバイ)、枝に稜があるのがクロキ。    <p>ナギイカダ モチノキ ミツマタ</p>    <p>北山池にて クロバイ クロキ</p>